

清津川 釜川右俣

平成 24 年 8 月 14 日～15 日

メンバー：早川 (L)、平本、熊崎
(記)

当初、8/12～14 で南ア・前聖ノ滝沢を遡行する予定だったが、天気が思わしくなく、あれこれ検討した末、8/14、15 で釜川右俣となった。前夜、グリーンピア津南の手前を左に抜けて、大場集落の先から釜川右岸沿いの林道を進むが、テントを張れそうな良い場所がないので、戻って大谷内ダム手前の広場で泊まる。

8 月 14 日 (火) 曇り

翌朝、昨夜通った林道を山の斜面を巻いてどんどん進むと、標高 870m 付近にゲートがあり、ゲート手前で左側に取水口に降りる細い道が分岐している。ゲート前の拡幅部に車を置いて出発。道を降りて行く途中ででかい熊の糞があった。道を下りきった所にちょうど取水口があり、沢靴に履き替える。水が少し濁っていて、河原の水垢の跡から 30cm 位増水しているようだ。小雨混じりのなか、渡渉を繰り返して進んでいくと、長さ 20m のトロが現れる。いきなり泳ぐ気にはなれず、右側の明瞭な巻

道を進む。トロの奥には小滝が連続していて、それも一緒に巻く。

トラロープが随所に張ってある。また河原を進んでいくと、二俣に着く。右俣に入って最初の 4mCS 滝は水量が多くて難しそうなので、右岸を巻く。踏み跡を辿って左俣との間の小尾根を少し登り、トラロープが張り巡らされたバンドをトラバースして落口上流にでる。すぐ上の 2 段 5m 滝を左岸から巻くと、トロの奥に 10m 位の CS 滝が現れる。ここも左岸から巻き、懸垂 7m で降りる。この辺り、ゴルジュと草付斜面が続く、一雨来たらやばそう。釜のある 8m 滝は釜の左側を腹まで浸かって滝の左側にある凹角を登る。ホールド豊富だが、補助ロープを出す。これを越えると長さ 20m のトロが現れる。ここは巻けそうになく、ザイルを付けて自分がトップで左岸の岩壁沿いを進む。見た目より流れがあったが、幸い岩壁にはホールドが沢山あって泳がなくても、ザックの浮力を活かしてグイグイへつって行けた。トロの奥の 2mCS 滝は左岸の岩壁を補助ロープを出して登る。この後、ゴルジュの中にナメ小滝や釜が連続し、直登したり

へつったりして進む。所々、岩が少々脆かったりして、微妙なへつりの部分があった。屈曲したゴルジュを抜けると、目の前の左岸側に大きな白い壁が見え、左に曲がっていくと、一気に明るく開けた溪相になって、見るからに流麗な大きなナメ滝が現れる。三ッ釜の大滝だ。しばらく見とれた後、水流右側ののっぺりしたリッジをノーザイルで登る。思ったより傾斜が緩く、ホールドもそれなりにあるが、所々岩が脆くて剥がれたりするので気が抜けない。リッジを登ってブッシュ帯に入り、さらに踏み跡を追って登る。大滝の上は左俣の横沢と右俣のヤド沢の二俣になっていて、ヤド沢の滝もいくつか巻いて、その上に出る。ヤド沢を渡って、傾斜の緩いスラブを少し下って横沢に出る。眼下には両岸に広大な白いスラブ斜面が広がり、大滝の落口の上には、まん丸い大きな釜がいくつもぼこぼこ空いていて面白い。上流は傾斜の緩いナメが延々続いていてとても気持ちの良い場所だ。その長いナメを抜けると、また溪相が前のように戻って黒い壁が立ってくる。5m位の斜滝を右岸から巻き、少し

行くと、大きな釜のある6m滝。ザイルを出して、水面近くのバンドを進み、水流左側の壁を登る。途中でハーケンを1本打つ。さらに進むと、高い壁に囲まれた20m位の滝が現れる。高さがあり一見のっぺりしていて難しそうに見える。水流左側ののっぺりしたスラブを平本さんトップでザイルを出して登る。途中でハーケンを1本打つ。上半部は思ったよりホールドが豊富だった。連続する小滝を直登したりへつったりしていく。一部細かく脆いへつりがあったって緊張する。まん丸い釜をもった2段5m滝を右側の壁から登り、長さ15m位のトロを胸まで浸かって通過すると、15mひよんぐり滝。ここは左岸側の急な草付壁を自分がザイルを出して落口上まで登る。りんどうの花が咲いていた。登りきると、残置のシュリングがあり、これを利用して急な草付斜面を10m程懸垂。降りたところが清水沢との出合。横沢は斜滝となって合流している。手前に1mの小滝のある4mCS滝は左岸から巻いた。この辺りあらこちらで魚影が走る。逃げ遅れて？浅瀬の岩の裏に頭隠して尻隠さず状態のイワナを発見。すかさ

ず手を突っ込み、ヌルヌルしてつるっと逃げられそうだったがなんとかゲット。今日は釣りする時間もなさそうだったので良かった。トロ 10m を胸まで浸かって通過。ゴルジュの中の小滝を次々直登していくと、大きな釜を持った 2 条 12m 滝。右岸のルンゼからブッシュを巻く。そこからしばらく河原を歩くと、石積堰堤とコンクリートの道路橋が現れる。橋の下には砂地があって、整地した跡があり薪もある。ここなら一雨来ても問題ない。時間も時間なのでここで泊まることにする。

【タイム】林道ゲート 8:25、取水口 8:55、二俣 9:45、三ッ釜の大滝上 12:45、清水沢出合 15:50、林道 17:10

8月15日(水) 晴れのち曇り
翌朝、青空が広がって天気は回復したようだ。しばらく何の変哲もない河原を進む。両岸の壁が立ってきたと思ったら、釜のあるくの字に屈曲した 3 段 15m 滝。下の 2 段は傾斜が緩いが 3 段目は隠れてよく見えない。左岸側のずるずるの急な草付を残置トラロープを使って登り、巻く。巻いたところが

ちょうど二俣。左俣はすぐにきれいな釜をもった 5m 滝が落ちる。滝の左の壁を残置トラロープを頼りに登る。これを越えるともう問題となるようなところはない。所々、ナメや小滝のある河原をひたすら登っていく。標高 1560m の二俣で霧ノ塔直下に出ようと左俣に入るが、すぐに大量の倒木で塞がれてしまったので、引き返して右俣に登る。忠実に沢型を詰めるとほとんどやぶ漕ぎなしで稜線の登山道に出た。青空は広がっているが、なんだか雲行きが怪しい。沢装備を解いて下山にかかる。遠くに鳥甲山の白クラが見える。同時にはるか彼方に一昨日泊った大谷内ダムが見える。遠っ…。青空が広がる中、小松原湿原の木道を機嫌よく歩いていたら、いきなり大粒の雨が降ってきた。長い登山道を降りると、今度は長い林道歩き。時折、スコールを浴びながら歩く。後少しでゲートという頃、早川さんが「熊だ！」と叫ぶ。50m 位先に何やら黒っぽいような茶色っぽいような塊が左の斜面に動いたのが見えた。その場所に行くと、石の上に濡れたでかい足跡が…。昨日見た熊の糞の主か。帰りは、麓

の津南駅舎にある温泉で汗を流し、湯沢で偶然見つけた洋食屋で夕食を食べて帰った。

【タイム】

林道 7:05、横沢の二俣 7:40、登山道 11:30、林道 15:10、林道ゲート 17:00。



8m 滝。左の凹角を登る。



長さ 20m のトロ



三ッ釜の大滝



大滝上のナメ



20m 滝



2条 12m 滝



熊の足跡？